

滋賀県議会だより

会派別議員数

自由民主党・真政会	…20人
民主党・県民ネットワーク	…17人
対話の会・びわこねっと	…4人
日本共産党滋賀県議会議員団	…3人
公明党	…2人
無所属	…1人
定数47人	現員47人
(平成22年10月13日現在)	

No.55

編集・発行／滋賀県議会

〒520-8577 大津市京町4-1-1

TEL 077-528-4094



(社) びわこビジュアルビューロー
善水寺の紅葉(湖南市)

9月定例会の概要

9月16日から10月13日までの会期で開かれた滋賀県議会9月定例会では、「滋賀県議会議員の定数および各選挙区において選挙すべき議員の数に関する条例案」をはじめとする議員提出議案10件と「平成22年度滋賀県一般会計補正予算(第3号)」をはじめとする知事提出議案39件が上程されました。審議の結果、決算特別委員会を設置して閉会中に審査されることとなった「平成21年度滋賀県一般会計および各特別会計歳入歳出決算の認定を求めることについて」ほか3件を除いて、いずれも原案のとおり可決または同意しました。

●関西広域連合の規約を可決しました

滋賀県を含めた2府5県により設立される予定の関西広域連合について、その規約を可決しました。

●委員会において附帯決議を可決しました

厚生・産業常任委員会において、ドクターヘリの共同運航に関して、効果等の検証等を求める「議第91号平成22年度滋賀県一般会計補正予算(第3号)に対する附帯決議案」を、地方分権・行財政対策特別委員会において、関西広域連合設立に当たり知事に適切な措置を求める「議第121号関西広域連合規約につき議決を求めることについて」に対する附帯決議案」を、それぞれ可決しました。

9月定例会における 質疑・質問から

2期目の嘉田県政

問 1期目には、マニフェストや基本構想の実現のために、対話と共感を掲げて取り組んでこられました

が、これからは、市町や議員、そして県民との対話を謙虚に行っていくことも大切だと考えますが、2期目を迎えるに当たっての知事の政治姿勢を伺います。

答 また、相次ぐ県職員の不祥事により県民の信用は地に落ちてしまった感があります。今後の再発防止に向けた考えを伺います。

確保を徹底することによって、再発防止に努めていきたいと考えています。

関西広域連合

問 趣旨では、「個性豊かで活力に満ちた関西を作り上げていくことが重要」とされています。府県の域を超える広域連合は、当面の7分野への取組にもありますが、本県の費用対効果などメリット、デメリットをどのように想定されているのか、伺います。

答 メリットについては、3点あります。

1点目は、広域災害発生時における相互応援態勢の整備やドクターヘリの運航などによる、県民の命を守る取組の拡充、2点目は、東アジア諸国への観光プロモーションの実施や、大企業と中小企業のマッチングなどで本県産業および地域の活性化の一助になること、3点目は、資格試験・免許等の業務の集約により、事務の効率化、経費の削減が図れることです。

デメリットについては、新たな組織体制づくりや一定の負担金が必要となることと考えられますが、これらは、広域連合が広域的な行政を担う責任主体として、

権限をもって事業を行う上で必要なことと考えています。

問 関西広域連合を設立することで、大阪、京都、兵庫の大きな府県が中心となってしまう、滋賀県が埋没するのではないかとという意見が多く出ています。

一方で、関西の観光地としての位置付けの方が、より多くの人に訪れてもらえる、関西ブランドの構築によって滋賀県産品の販路がより拡大されるといった意見もあります。

関西広域連合に参加することによって、県がどのように活性化すると考えているのか、所見を伺います。

答 広域観光や広域産業の分野で地域の活性化に取り組みむこととしており、

この中で県がより活性化すると考えています。限られたパイを奪い合うのではなく、全体を大きくすること、関西全体の底上げを図るものであり、本県単独では十分な取組ができないものです。県独自の取組も関連づけて、外国人観光客の誘致や県内企業の販路拡大、ビジネスチャンスの拡大につなげたいと考えています。

滋賀県基本構想

問 県民の大きな期待を受けて再選された知事が、選挙で掲げられたマニフェストの実現への道筋を示すのがこの基本構想になります。基本構想原案に示された8つの扉を開いたときに見

える滋賀県の姿の全体像を示すことが望まれています。私たちが共有できる滋賀県の姿として、この基本構想で分かりやすい全体像を示すべきだと考えますが、知事の所見を伺います。

答 基本構想では、県民の皆さんが共有できる滋賀の姿として、4つの姿を描いています。

1つは、県民の皆さんが、人と人のつながりの中で、不安なく、楽しく暮らす滋賀の姿、2つめは、琵琶湖の再生や低炭素社会の実現に向けて、人と自然がつながる美しい滋賀の姿、3つめは、足腰の強い経済に支えられた、たくましい活力に満ちた滋賀の姿、4つめは、県民みんなで命と暮らしを守る、安全・安心な滋賀の姿です。

なかなか端的に表現しにくいですが、一言で申し上げると、人と人、人と自然のつながりの力で支える「住み心地日本一の滋賀」とでもいうものになると考えています。

ドクターヘリの導入

問 関西広域連合の広域医療連携としてドクターヘリ運航があげられており、広域連合への参加が県民の生命を守る施策の充実に繋がると議論されていますが、その準備段階で示されたドクターヘリの共同運航に関する図面では、滋賀県の北部には、30分以内に到着できない地域があることが明らかに